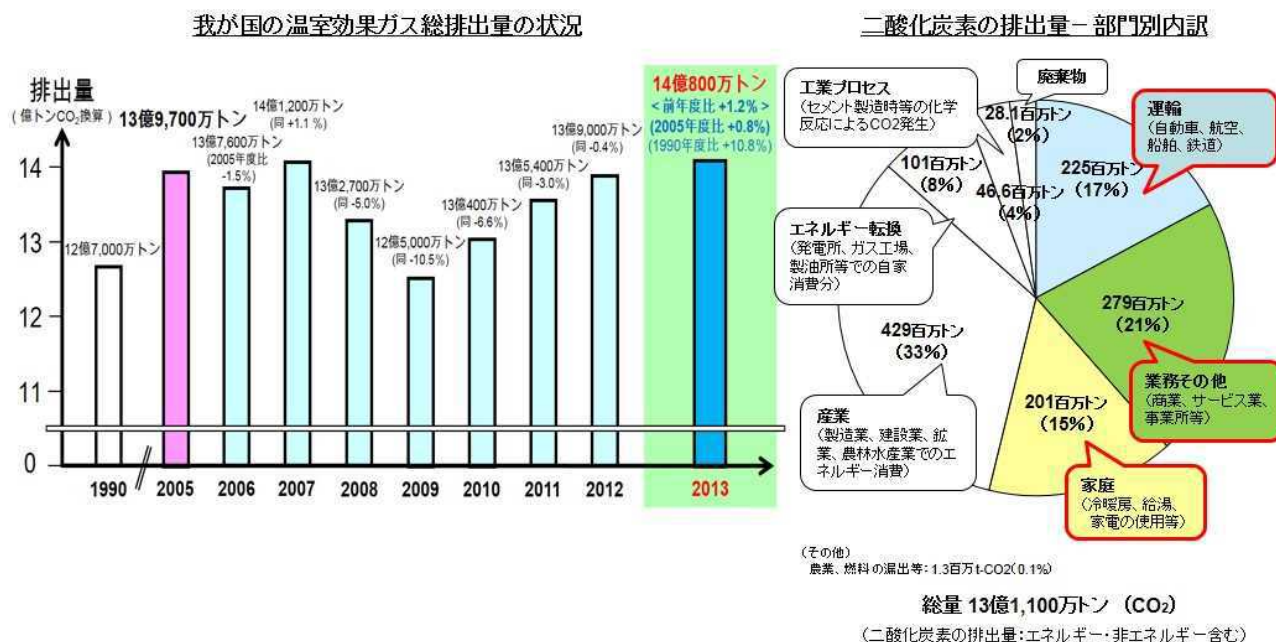


I. 地球温暖化をめぐる現状と九州の実態

1. 我が国における温室効果ガス排出量の現況

2013年度の我が国の温室効果ガス排出量は、14億800万トン（CO₂換算、前年度比+1.2%、2005年度比+0.8%）でした。）

我が国における温室効果ガス排出量の現況（2013年度）

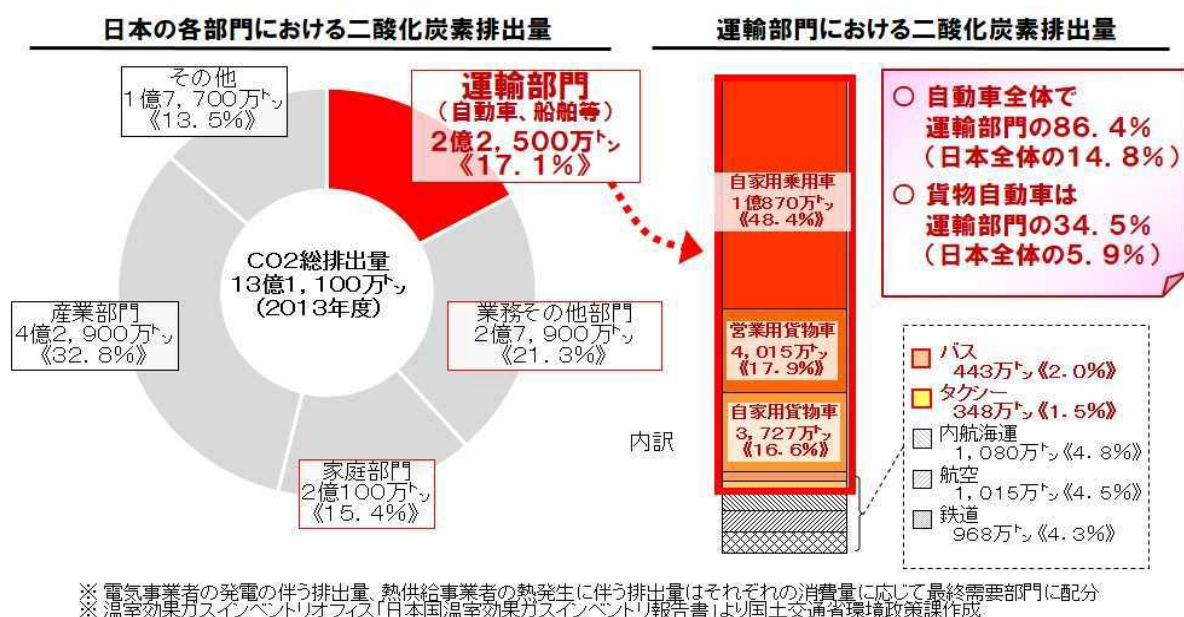


2. 運輸部門における二酸化炭素排出量

平成25年度における日本の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門からの排出量は17.1%、自動車全体では運輸部門の86.4%（日本全体の14.8%）、貨物自動車に限ると運輸部門の34.5%（日本全体の5.9%）を占めています。

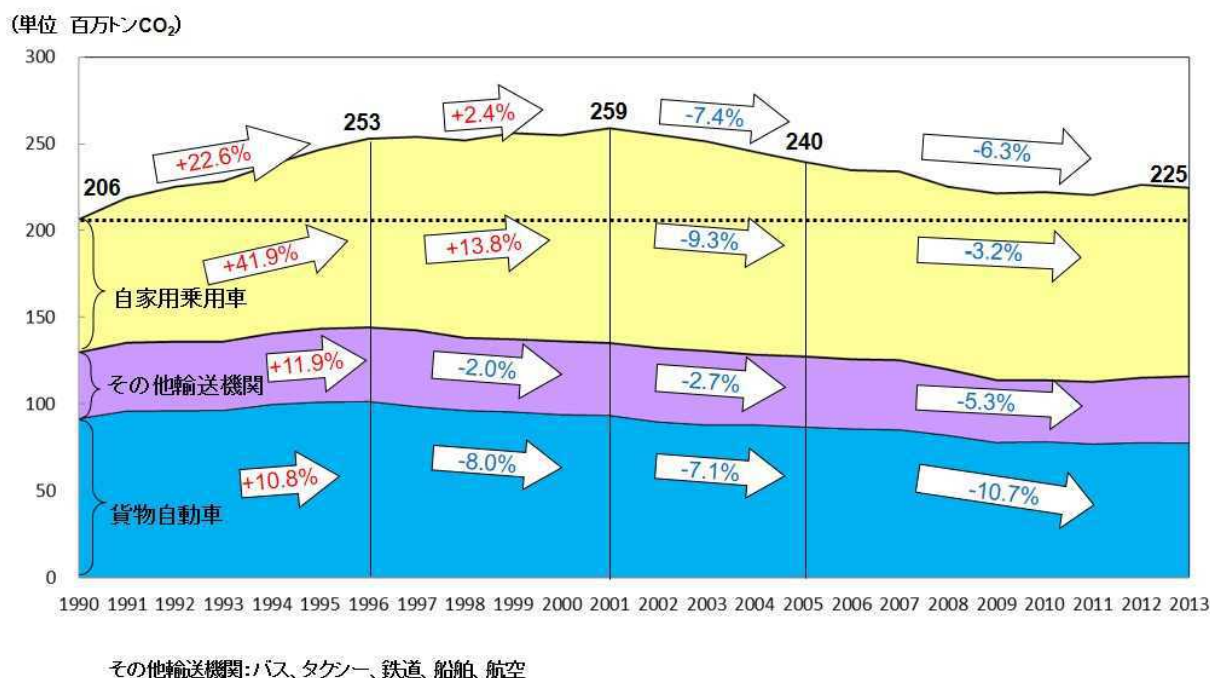
※温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、フロンガス等があり、二酸化炭素は温室効果ガスの中でも大気中に最も多く存在し、地球温暖化への影響が最も大きいとされています。

運輸部門における二酸化炭素排出量(内訳)



1990年度から1996年度までの間に、運輸部門における二酸化炭素の排出量は22.6%増加しましたが、その後、1997年度から2001年度にかけてほぼ横ばいに転じ、2001年度以降は減少傾向を示しています。

運輸部門における二酸化炭素排出量の推移



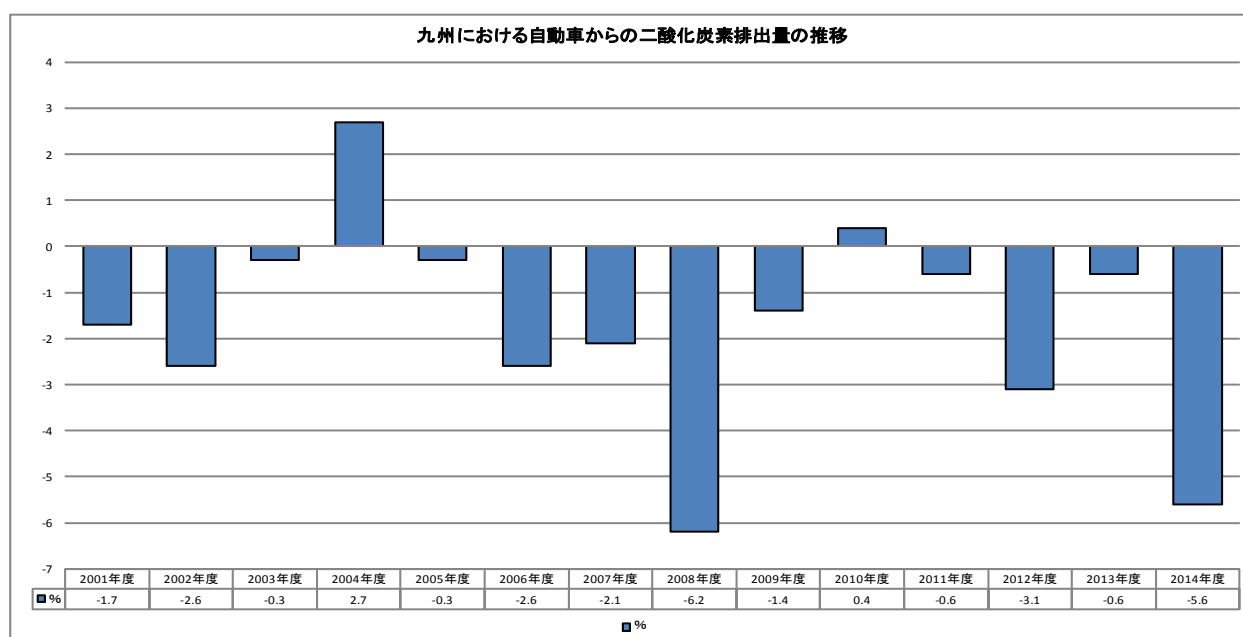
3. 九州地区の運輸部門における二酸化炭素排出量

九州地域7県の温室効果ガス総排出量は、基準年（1990年度）で約1億5253万トン（二酸化炭素換算）、最新年度（2000年～2005年）で約1億5247万トンであり、全国総排出量の12.1%～11.2%を占めています。

（資料：九州経済産業局 九州地域におけるエネルギー・温暖化対策活動ハンドブック）

また、九州地区における運輸部門の二酸化炭素排出量は、自動車から排出される二酸化炭素量を、ガソリン、軽油の販売量から推計した結果、平成26年度は、前年より5.6%減少しています。（出典：都道府県別石油製品販売総括速報）

平成2005年度以降は減少傾向にあります。今後とも着実に低公害車の普及等を推進することにより、エネルギー消費量の削減に取り組む必要があります。



2014年度のガソリン、軽油の販売量の対前年比

	九 州	全 国
ガソリン	93.8%	94.8%
軽 油	95.3%	95.9%
合 計	94.4%	95.2%